

## 東大和市

【児童・生徒数】  
6,436名

【学校数】  
15校

### 【東大和市の特色】

- ・本市は、住宅地が多く、北に狭山丘陵があり、自然豊かな環境である。
- ・市内に5校ある中学校ごとに学区を設け、小中一貫教育に取り組んでいる。



### 【課題・改善】

- ・令和4年度は、日本フライングディスク協会指導普及委員及びオリンピックの塚原氏との連携であったが、現在着手している空手道をはじめ興味を示している団体が幾つも増えたことから、今後も多数のスポーツ関係機関との連携を計画的に図り、参加意欲の向上や環境を整備する。
- ・今年度の取組は、子供たちの実態、地域の実態を捉えながら部活動地域移行を見据えたものとして行った。運営面で見てきた課題を踏まえ、令和5年度は本格的に部活動地域移行につなげていく。

### 目標

- ①児童・生徒の運動、スポーツに触れる環境の整備
- ②児童・生徒の運動、スポーツに対する参加意欲の向上

### 【成果】

- ①日本フライングディスク協会指導普及委員との連携が他の運動・スポーツにおける個人及び団体に波及し、本格的かつ多様なスポーツ環境が増えた。
- ①放課後子ども教室での取組が令和5年度の部活動地域移行の基盤づくりとなった。
- ②放課後子ども教室における児童・生徒及びスタッフ等の聞き取りにおいて、運動・スポーツへの参加意欲の向上及び興味関心の高まりが見られた。
- ②放課後子ども教室におけるスポーツ関係機関との連携において、回数を重ねるごとに参加者数が増加した。

### 【実態・課題】

- ・コロナ禍による児童・生徒を取り巻く運動、スポーツ環境は大きく変化し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、運動、スポーツへの参加等の意欲が著しく減少している。
- ・コロナ禍以前に構築されていた児童・生徒と地域との関係が希薄化され表面化している。
  - 運動、スポーツに触れる環境の整備
  - 運動、スポーツに対する参加意欲の向上

### 【取組】

- 放課後子ども教室におけるスポーツ関係機関との連携した取組
  - ・日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、フライングディスク体験を実施
  - ・アテネオリンピック男子体操金メダリストの塚原直哉氏と連携し演技及び講演等を実施
- 授業におけるフライングディスク体験の取組
  - ・日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、小学校8校においてフライングディスクの授業を実施

## 【取組（詳細）】（写真の枚数は自由）

### ○ 放課後子ども教室におけるフライングディスク体験の取組の充実

日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、小学校全校に対して、各校2回、放課後子ども教室の時間に、フライングディスク体験を実施した。

児童が、講師から放たれたフライングディスクを夢中で追いかけてキャッチする姿が見られた。



講師から放たれるフライングディスクに児童が向かう姿



講師：本田 雅一 氏

### ○ 放課後子ども教室における体操等に関する演技及び講演等の充実

2月、小学校でアテネオリンピック男子体操金メダリストの塚原直哉氏と連携し放課後子ども教室におけるマット演技及び講演を実施した。児童が塚原氏のマット演技を見て、心から喜んでいる姿が見られた。



塚原直哉氏によるマット演技



講演の様子

### ○ 授業におけるフライングディスク体験の取組

2月から3月、小学校8校で、日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、フライングディスクの授業を実施した。児童からはもう一度やりたいという声が何度も上がった。



ディスクを投げる際のポイントを共有する姿



ミニゲームを行ない、夢中になっている姿